

ことばが遅い・コミュニケーションの悩み



ことばを教えるより、**子どもとのやりとりを楽しみましょう。**

ことばが出ない・一方的にしか話さない

・お友達と比べてことばが遅い気がする ・こちらの言葉に対して反応が鈍い 等

子どもはこんな思いかも・・・

人に伝えたい
気持ちがまだ
少ない

伝えたいのに
うまくとまらない

伝えたいのに
うまく言葉にできない

大人が何を
言っているのか
わからない

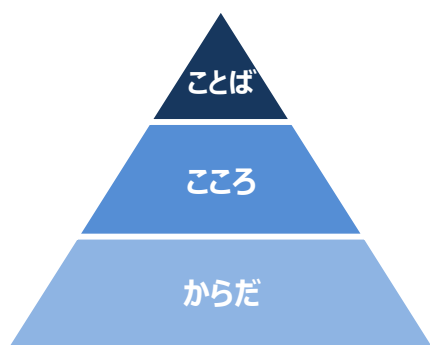
かかわりや対応のポイント

「ことばの発達」には、**土台となる「こころ」と「からだ」を大きく、しっかりと育てることが大切です。**

そのためには、低年齢からの生活リズムの安定や手ごたえのある活動が欠かせません。

ことばの発達には、「伝えたい内容」と「伝えたい相手」が必要です。ことばの土台となる「こころ」と「からだ」が安定して育つことで、興味や関心が広がり、ことばの世界に入りやすくなります。

ことばの発達を支える土台



ことば

ことばの理解・話す・考える

こころ

安心感・こころ動く経験（伝えたい内容）・伝えたい相手がいる

からだ

体力・体調・それを支える生活リズム（睡眠・食事・あそび）



「ジャージャー」、「ワンワン」、「なでなで」などの擬音語や擬態語は子どもが興味を持ちやすいことばです。視線を合わせてうなずく、「あっ！」と指差しで伝える、子どもの「見て！」や「もう一回！」という表情やしぐさを受け止めることもコミュニケーションの大切な手段です。

ことばが育つ1歳6か月から3歳頃までは、ことばの発達にも個人差が大きいです。以下のような心配が続くようなら、ぜひご相談ください。

- ・耳の聞こえが気になる
- ・大人の言うことが分かっていないと感じる
- ・ことば以外の方法（指差しなど）が少ない
- ・伝えたい気持ちが弱い

